

古文ドリル：「の」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「の」の正体（4用法）

古文の格助詞「の」は、受験生がもっとも識別に迷う助詞のひとつです。用法は**4種類**あり、それぞれ意味がまったく異なります。

用法	言い換え	見分けポイント	例
① 連体修飾格	(AのB)	直後が 体言 、修飾関係	春の花
② 主格	が	連体節の中・直後が 用言の連体形	風の吹く夜
③ 同格	で （～であって）	前後が 同じもの を指す・直後が連体形	白き鳥の、嘴と脚と赤き
④ 準体格	もの・こと・人	直後が 格助詞 （を・に・が・は）	散るのを惜しむ

識別の鉄則（置き換えテスト）

- 「**が**」に置き換えて自然 → **主格**（直後が用言連体形で、その先に体言がある連体節）
- 「**で**」に置き換えて自然+前後が同一物 → **同格**（直後が連体形、後ろに同じ体言が省略）
- 「**もの・こと・人**」に置き換え可+直後が格助詞 → **準体格**
- どれにも当てはまらない（直後が体言の修飾） → **連体修飾格**

主格・同格・準体格の3つを先に確認し、残ったものを連体修飾格と判断するのが確実です。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① 「の」の直後の語を見る

- 直後が**体言**（名詞） → まず **連体修飾格**（春の花／都の月）
- 直後が**用言の連体形**（動詞・形容詞） → **主格** か **同格** を疑う
- 直後が**格助詞**（を・に・が・は） → **準体格**（の＝もの・こと）

コツ② 直後が連体形るとき、「が」で訳して主語になるか

- 「風の吹く」 = 「風**が**吹く」と自然 → **主格**
- 「白き鳥の…赤き」 = 前の「鳥」と後ろが**同じ鳥** → **同格**（「で」で訳す）

- ・ 見分け：後ろの修飾句が**前の体言を説明し直している**なら同格、**別の体言を修飾**しているなら主格。

コツ③ 「の」の前後が同じものか別のものか

- ・ 同じもの（白き鳥＝嘴脚赤き鳥）→ **同格**
- ・ 別のもの（風／夜）→ **主格** か **連体修飾格**

よくある引っ掛け

- ・ 「の」の直後が動詞でも、**後ろの体言を別に修飾**していれば主格（風の吹く**夜**）。
- ・ 「の」の前後が同一物なら、直後が連体形でも**同格**（赤き花の、大きなる）。
- ・ 「赤きの**の**を取る」のように直後が格助詞なら**準体格**（連体修飾格と混同しない）。

採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

4用法を純粹に識別する基本問題。各用法5問ずつ。

Q1. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春の花。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「花」。「春が花」「春で花」とは言えず、「春の花」と修飾関係が成り立つ。直後が名詞ならまず連体修飾格。

Q2. 次の傍線部「の」を識別せよ。

山の端。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「端（は）」。「山の端（やまのは）」は山ぎわのこと。前の語が後ろの名詞を修飾する典型。

Q3. 次の傍線部「の」を識別せよ。

君の声。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「声」。「君が声」とも言えそうだが、後ろが用言でなく体言なので主格ではなく連体修飾格。「あなたの声」。

Q4. 次の傍線部「の」を識別せよ。

都の月。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「月」。「都の月」で修飾関係。が・で・もの のどれにも置き換わらない。

Q5. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人の心。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「心」。「人の心」で修飾関係。直後が名詞なので連体修飾格。

Q6. 次の傍線部「の」を識別せよ。

風の吹く夜。

答え：主格 **解説：**「風が吹く夜」と「が」に置き換えて自然。直後「吹く」は連体形で、その先の体言「夜」を修飾する連体節。「風」はその節の主語。

Q7. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月の出づるころ。

答え：主格 **解説：**「月が出づるころ」と訳せる。直後「出づる」は連体形、先の体言「ころ」を修飾。「月」が主語なので主格。

Q8. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雪の降る朝。

答え：主格 解説：「雪が降る朝」と自然。「降る」は連体形で「朝」を修飾。「雪」が主語の主格。

Q9. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鳥の鳴く声。

答え：主格 解説：「鳥が鳴く声」。「鳴く」は連体形で「声」を修飾。「鳥」が主語の主格。

Q10. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の散る春。

答え：主格 解説：「花が散る春」と訳せる。「散る」は連体形で「春」を修飾。「花」が主語の主格。

Q11. 次の傍線部「の」を識別せよ。

赤き花の、いと大きなる。

答え：同格 解説：「赤い花で、とても大きい（花）」。「で」に置き換え可。前の「赤き花」と後ろの「いと大きなる（花）」は同じ花を指す。後ろに同じ体言「花」が省略された同格。

Q12. 次の傍線部「の」を識別せよ。

をかしげなる児の、二つばかりなる。

答え：同格 解説：「かわいらしい子で、二歳ほどの（子）」。「で」に置き換え可、後ろに「児」が省略された同格。

Q13. 次の傍線部「の」を識別せよ。

清げなる僧の、黄なる地の袈裟着たる。

答え：同格 解説：「こざっぱりした僧で、黄色い地の袈裟を着ている（僧）」。「で」に置換可。同格。

Q14. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きやかなる男の、太刀帯きたる。

答え：同格 **解説：**「大柄な男で、太刀を腰につけた（男）」。前の「男」と後ろが同一物。「で」に置換でき、後ろに「男」が省略された同格。

Q15. 次の傍線部「の」を識別せよ。

ほそやかなる女の、髪長き。

答え：同格 **解説：**「ほっそりした女で、髪が長い（女）」。前後とも同じ女を指す。同格。

Q16. 次の傍線部「の」を識別せよ。

散るのを惜しむ。

答え：準体格 **解説：**直後が格助詞「を」。「の」は「こと」に置き換えられ「散ることを惜しむ」。「の」が体言の代用をする準体格。

Q17. 次の傍線部「の」を識別せよ。

白きのを着る。

答え：準体格 **解説：**直後が格助詞「を」。「白いものを着る」と「もの」に置き換え可。「の」が名詞の代わりをする準体格。

Q18. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きなのに乗る。

答え：準体格 **解説：**直後が格助詞「に」。「大きいものに乗る」。「の」 = 「もの」で準体格。

Q19. 次の傍線部「の」を識別せよ。

赤きのが欲し。

答え：準体格 **解説：**直後が格助詞「が」。「赤いものが欲しい」。「の」 = 「もの」の準体格。

Q20. 次の傍線部「の」を識別せよ。

来るのを待つ。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「来るのを（来る人・来ること）待つ」。「の」が体言の代用をする準体格。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

実際の古文に近い例文で、4用法を見分ける。置き換えテストを順に試そう。

Q21. 次の傍線部「の」を識別せよ。

秋の夕暮れ。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「夕暮れ」。「秋の夕暮れ」で修飾関係。連体修飾格。

Q22. 次の傍線部「の」を識別せよ。

水の流るる音。

答え：主格 解説：「水が流るる音」。「流るる」は連体形で「音」を修飾。「水」が主語の主格。

Q23. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雨の降るを見る。

答え：主格 解説：「雨が降るのを見る」。「降る」の主語が「雨」で、「が」に置換できる主格。

Q24. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きな柑子の木の、枝もたわわになりたる。（徒然草）

答え：同格 解説：「大きな柑子の木で、枝もたわむほど（実が）なっている（木）」。「木」と後ろが同一物。「で」に置換でき、後ろに「木」が省略された同格。

Q25. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あはれなるのを見る。

答え：準体格 **解説：**直後が格助詞「を」。「しみじみと趣のあるものを見る」。「の」＝「もの」の準体格。

Q26. 次の傍線部「の」を識別せよ。

私の行く道。

答え：主格 **解説：**「私が行く道」と「が」に置換して自然。「行く」は連体形で「道」を修飾。「我」が主語の主格。

Q27. 次の傍線部「の」を識別せよ。

庭の桜。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「桜」。「庭の桜」で修飾関係。連体修飾格。

Q28. 次の傍線部「の」を識別せよ。

星の光る空。

答え：主格 **解説：**「星が光る空」。「光る」は連体形で「空」を修飾。「星」が主語の主格。

Q29. 次の傍線部「の」を識別せよ。

やむごとなき人の、おはしけり。

答え：主格 **解説：**「高貴な人がいらっしゃった」。「おはし（おはす）」の主語が「人」。「が」に置換でき主格。※後ろが同じ人を説明し直すのではなく、述語に係るので同格でなく主格。

Q30. 次の傍線部「の」を識別せよ。

にほひやかなる花の、露をおびたる。

答え：同格 **解説：**「つややかな花で、露を帯びている（花）」。前後同一物。「で」に置換でき、後ろに「花」が省略された同格。

Q31. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月の都。(竹取物語)

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「都」。「月の都」で月にある都の意。修飾関係なので連体修飾格。

Q32. 次の傍線部「の」を識別せよ。

黒きのを選ぶ。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「黒いものを選ぶ」。「の」＝「もの」の準体格。

Q33. 次の傍線部「の」を識別せよ。

川の音聞こゆ。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「音」。「川の音(が)聞こゆ」で「川の音」は修飾関係。直後が名詞なので連体修飾格。

Q34. 次の傍線部「の」を識別せよ。

我が身一つの秋にはあらねど。(古今集)

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「秋」。「我が身一つの秋」で「私一人だけの秋」と修飾関係。連体修飾格。

Q35. 次の傍線部「の」を識別せよ。

多くの中に小さきの選ぶ。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「多くの中で小さいものを選ぶ」。「の」＝「もの」で体言の代用、準体格。

Q36. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鶯の鳴く。

答え：主格 解説：「鶯が鳴く」。「が」に置換して自然。直後「鳴く」は終止・連体同形だが、文中で体言を導けば主格。ここは「鶯が鳴く（こと）」で主語を示す主格。

Q37. 次の傍線部「の」を識別せよ。

高き屋の上。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「上（うへ）」。「高い御殿の上」で修飾関係。連体修飾格。

Q38. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと白き犬の、いみじう大きなる。

答え：同格 解説：「たいそう白い犬で、とても大きい（犬）」。前後同一物で「で」に置換可。後ろに「犬」が省略された同格。

Q39. 次の傍線部「の」を識別せよ。

海の色。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「色」。「海の色」で修飾関係。連体修飾格。

Q40. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雲のゐる山。

答え：主格 解説：「雲がゐる（=かかっている）山」。「ゐる」は連体形で「山」を修飾。「雲」が主語の主格。

Q41. 次の傍線部「の」を識別せよ。

紅の衣。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「衣」。「紅の衣（くれなゐのころも）」で修飾関係。連体修飾格。

Q42. 次の傍線部「の」を識別せよ。

心ざし深かりける人の、夜離れせず通ひける。

答え：同格 **解説：**「愛情の深かった人で、毎夜通ってきた（人）」。前後とも同じ人を指す。「で」に置換でき後ろに「人」が省略された同格。

Q43. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きなの、ふと出で来たり。

答え：準体格 **解説：**「大きいものが、ふっと出てきた」。「の」が体言の代用をして主語になる。「もの」に置換でき準体格。

Q44. 次の傍線部「の」を識別せよ。

谷の水。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「水」。「谷の水」で修飾関係。連体修飾格。

Q45. 次の傍線部「の」を識別せよ。

子の泣くを見て。

答え：主格 **解説：**「子が泣くのを見て」。「泣く」は連体形、「子」がその主語。「が」に置換でき主格。

Q46. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いみじう白き扇の、いと多く散りたる。

答え：同格 **解説：**「たいそう白い扇で、たくさん散らばっている（扇）」。前後同一物で「で」に置換可。後ろに「扇」が省略された同格。

Q47. 次の傍線部「の」を識別せよ。

旅の空。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「空」。「旅の空」で修飾関係。連体修飾格。

Q48. 次の傍線部「の」を識別せよ。

浪の寄する磯。

答え：主格 **解説：**「波が寄せる磯」。「寄する」は連体形で「磯」を修飾。「浪」が主語の主格。

Q49. 次の傍線部「の」を識別せよ。

青きのと赤きのと。

答え：いずれも準体格 **解説：**それぞれ直後が格助詞「と」。「青いものと赤いものと」。「の」が体言の代用をする準体格。

Q50. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の香。

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「香（か）」。「花の香」で修飾関係。連体修飾格。

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

紛らわしいもの、同一文中に複数の「の」が出るもの、有名作品の一節で実戦的に。

Q51. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春の夜の夢ばかりなる手枕に。(千載集)

答え：連体修飾格 **解説：**直後が体言「夢」。「春の夜の夢」と修飾を重ねる。「が・で・もの」に置換できず連体修飾格。

Q52. 次の傍線部「の」を識別せよ。

世の中にたえて桜のなかりせば。(古今集・在原業平)

答え：主格 **解説：**「世の中に桜が全く無かったら」。「桜が」と訳せる。「なかり」の主語が「桜」。主格。

Q53. 次の傍線部「の」を識別せよ。

宮の内。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「内（うち）」。「宮の内（御殿の中）」で修飾関係。連体修飾格。

Q54. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鳩の海や月の光のうつろへば。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「光」。「月の光」で修飾関係。連体修飾格。（同じ歌の後ろの「光の」は主格になりうるが、傍線部は「月の光」の「の」。）

Q55. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月の光のうつろへば。

答え：主格 解説：傍線部は「光の」。「光がうつろえば（＝移ろえば）」と「が」に置換でき、「うつろへ」の主語が「光」。主格。

Q56. 次の傍線部「の」を識別せよ。

我の思ふ人。

答え：主格 解説：「我が思ふ人」と「が」に置換可。「思ふ」は連体形で「人」を修飾。「我」が主語の主格。

Q57. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雀の子の、ねず鳴きするにをどり来る。（枕草子）

答え：主格 解説：「雀の子が、ねずみの鳴きまねをすると踊るようにやって来る」。「ねず鳴きする」の主語が「雀の子」。「が」に置換でき主格。

Q58. 次の傍線部「の」を識別せよ。

塵のつもりて山となる。

答え：主格 解説：「塵が積もって山となる」。「つもり」の主語が「塵」。「が」に置換でき主格。

Q59. 次の傍線部「の」を識別せよ。

春日野の若菜。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「若菜」。「春日野の若菜」で場所を表す修飾。連体修飾格。

Q60. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと幼き人の、文読みたる。

答え：同格 解説：「たいそう若い人で、文を読んでいる（人）」。前後同一物で「で」に置換可。後ろに「人」が省略された同格。

Q61. 次の傍線部「の」を識別せよ。

飛ぶのを捕らふ。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「飛ぶものを捕らえる」。「の」＝「もの」の準体格。

Q62. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鏡の影。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「影（かげ＝姿・光）」。「鏡の影（鏡に映る姿）」で修飾関係。連体修飾格。

Q63. 次の傍線部「の」を識別せよ。

燃ゆるのを消つ。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「燃えるものを消す」。「の」＝「もの」の準体格。

Q64. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鶴の群れ。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「群れ」。「鶴の群れ」で修飾関係。連体修飾格。

Q65. 次の傍線部「の」を識別せよ。

笛の音の、いとをかしげに聞こゆる。

答え：(傍線部＝「音の」) 主格 解説：傍線部は「音の」。「音がたいそう趣深く聞こえる」。「聞こゆる」の主語が「音」。「が」に置換でき主格。(前の「笛の」は連体修飾格。)

Q66. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雪の降りたるは。

答え：主格 解説：「雪が降っているのは」。「降り」の主語が「雪」。「が」に置換でき主格。直後「降りたる」は連体形で、準体法の「は」に続く。

Q67. 次の傍線部「の」を識別せよ。

唐土のもろこし。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「もろこし」。修飾関係なので連体修飾格。

Q68. 次の傍線部「の」を識別せよ。

小さきのを取りて。

答え：準体格 解説：直後が格助詞「を」。「小さいものを取って」。「の」＝「もの」の準体格。

Q69. 次の傍線部「の」を識別せよ。

男の、女のもとへ行く。

答え：主格 解説：傍線部「男の」。「男が、女のもとへ行く」。「行く」の主語が「男」。「が」に置換でき主格。(後ろの「女の」は連体修飾格。)

Q70. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと小さき鳥の、梢にゐたる。

答え：同格 解説：「たいそう小さい鳥で、梢に止まっている(鳥)」。前後同一物。「で」に置換でき後ろに「鳥」が省略された同格。

Q71. 次の傍線部「の」を識別せよ。

飛ぶ鳥の声。

答え：連体修飾格 解説：傍線部「鳥の」。直後が体言「声」。「鳥の声」で修飾関係。連体修飾格。
（「飛ぶ」は「鳥」を修飾する別の連体修飾。）

Q72. 次の傍線部「の」を識別せよ。

老いたるの、若きにまさる。

答え：準体格 解説：「年老いた者が、若い者にまさる」。「の」が「者・もの」の代用をして主語に立つ準体格。直後が読点でも、体言の代用かどうかで判断する。

Q73. 次の傍線部「の」を識別せよ。

君の行く道の長手を繰り畳ね。(万葉集)

答え：（前「君の」）主格／（後「道の」）連体修飾格 解説：「君が行く道の遠さを…」。最初の「の」は「君が行く」で主格。次の「の」は「道の長手（道の遠さ）」で連体修飾格。一文に複数の「の」が出る典型。

Q74. 次の傍線部「の」を識別せよ。

滝の音は絶えて久しくなりぬれど。(拾遺集)

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「音」。「滝の音」で修飾関係。連体修飾格。

Q75. 次の傍線部「の」を識別せよ。

花の色は移りにけりな。(古今集・小野小町)

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「色」。「花の色」で修飾関係。連体修飾格。

Q76. 次の傍線部「の」を識別せよ。

うつくしきもの。瓜にかきたる児の顔。(枕草子)

答え：連体修飾格 **解説：**傍線部「児の」。直後が体言「顔」。「児の顔（幼児の顔）」で修飾関係。連体修飾格。

Q77. 次の傍線部「の」を識別せよ。

ねず鳴きのするに。

答え：主格 **解説：**「ねず鳴きがするので」。「する」の主語が「ねず鳴き」。「が」に置換でき主格。直後「する」は連体形。

Q78. 次の傍線部「の」を識別せよ。

黒き雲の、にはかに出で来て。

答え：主格 **解説：**「黒い雲が、にわかに出てきて」。「出で来」の主語が「雲」。「が」に置換でき主格。後ろが「雲」を説明し直す同格ではない（述語に係る）。

Q79. 次の傍線部「の」を識別せよ。

よきのもあしきのもあり。

答え：いずれも準体格 **解説：**それぞれ「の」の直後が「も」で、「の」が体言の代用をしている。「良いものも悪いものもある」。「の」＝「もの」の準体格。

Q80. 次の傍線部「の」を識別せよ。

秋風の吹きにし日より。（古今集）

答え：主格 **解説：**「秋風が吹いた日から」。「吹き」の主語が「秋風」。「が」に置換でき主格。直後「吹きにし」は連体形で「日」を修飾。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

難関大の実戦レベル。複数用法の混在・紛らわしい同格／主格・有名出典で総仕上げ。

Q81. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いづれの山の天に近き。(竹取物語・改)

答え：主格 解説：「どの山が天に近いか」。「近き」の主語が「山」。「が」に置換でき主格。(前の「いづれの」は連体修飾格。)

Q82. 次の傍線部「の」を識別せよ。

中將の、いと清げにて。

答え：同格 解説：「中將で、たいそう美しい様子で(その中將が)」。「前後が同じ「中將」を指し「で」に置換できる同格。

Q83. 次の傍線部「の」を識別せよ。

しづ心なく花の散るらむ。(古今集・紀友則)

答え：主格 解説：「落ち着いた心もなく花が散るのだろう」。「散る」の主語が「花」。「が」に置換でき主格。

Q84. 次の傍線部「の」を識別せよ。

年ごろ思ひつる人の、かく心変はりせるを。

答え：同格 解説：「長年慕ってきた人で、このように心変わりした(その人)を」。「前後とも同じ人を指す。「で」に置換でき後ろに「人」が省略された同格。

Q85. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大納言殿のまゐり給ひて。

答え：主格 解説：「大納言殿が参上なさって」。「まゐり給ふ」の主語が「大納言殿」。「が」に置換でき主格。敬語の主語も「の」で示せる。

Q86. 次の傍線部「の」を識別せよ。

白き鳥の嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。(伊勢物語・東下り)

答え：同格 解説：「白い鳥で、嘴と脚が赤く、鳴ほどの大きさの（鳥）が、水の上で遊びながら魚を食う」。「白き鳥」と後ろの説明が同一物。都鳥の描写。「で」に置換できる同格。

Q87. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人の待つ里。

答え：主格 解説：「人が待つ里」。「待つ」は連体形で「里」を修飾、「人」がその主語。「が」に置換でき主格。

Q88. 次の傍線部「の」を識別せよ。

心のうちに思ふ。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「うち」。「心のうち（心の中）」で修飾関係。連体修飾格。

Q89. 次の傍線部「の」を識別せよ。

月のいとあかきに。

答え：主格 解説：「月がたいそう明るいときに」。「あかき」の主語が「月」。「が」に置換でき主格。直後「あかき」は形容詞連体形で、準体法の「に」に続く。

Q90. 次の傍線部「の」を識別せよ。

人のそしる言の葉。

答え：主格 解説：「人が非難する言葉」。「そしる」は連体形で「言の葉（ことば）」を修飾、「人」がその主語。「が」に置換でき主格。

Q91. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いと大きなる石の、おしかぶさりたる。

答え：同格 解説：「たいそう大きい石で、覆いかぶさっている（石）」。前後同一物で「で」に置換可。後ろに「石」が省略された同格。

Q92. 次の傍線部「の」を識別せよ。

鹿の音の聞こゆる。

答え：(後の「音の」) 主格 解説：傍線部は「音の」。「(鹿の) 音が聞こえる」。「聞こゆる」の主語が「音」。「が」に置換でき主格。(前の「鹿の」は連体修飾格。)

Q93. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あやしう、この翁の歌はこれにはまさりけり。

答え：(傍線部「この」) 連体修飾格 解説：「この翁」で直後が体言「翁」。指示語+「の」で修飾関係。連体修飾格。

Q94. 次の傍線部「の」を識別せよ。

命長ければ恥多し。長くとも四十に足らぬほどにて死なんの、めやすかるべけれ。(徒然草)

答え：準体格 解説：傍線部「死なんの」。「四十に満たないくらいで死ぬのが、見苦しくないだろう」。「の」が「こと」に置き換えられ、体言の代用をする準体格。

Q95. 次の傍線部「の」を識別せよ。

雀の子のねず鳴きするにをどり来る。うつくしきもの。(枕草子)

答え：主格 解説：「雀の子が、ねず鳴きをすると踊るように寄ってくる」。「ねず鳴きする」の主語が「雀の子」。「が」に置換でき主格。

Q96. 次の傍線部「の」を識別せよ。

いみじう降る雪の、木ごとに咲きたる。

答え：同格 解説：「ひどく降る雪で、木ごとに(花のように)咲いている(雪)」。前後とも同じ雪を指す。「で」に置換でき同格。

Q97. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あけぼのの空。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「空」。「あけぼのの空（明け方の空）」で修飾関係。連体修飾格。

Q98. 次の傍線部「の」を識別せよ。

あまたの舟。

答え：連体修飾格 解説：直後が体言「舟」。「あまたの舟（たくさんの舟）」で数量＋体言の修飾。連体修飾格。

Q99. 次の傍線部「の」を識別せよ。

大きやかなる童の、髪うるはしきの、走り出でたり。

答え：（前「童の」）同格／（後「うるはしきの」）準体格 解説：前の「童の」は「大柄な童で、髪が美しい（童）」の同格。後ろの「うるはしきの」は直後が読点を経て主語に立ち、「髪の美しいのが走り出た」で「の」＝「もの・者」の準体格。同格と準体格が連続する難問。

Q100. 次の傍線部「の」を識別せよ。

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。（方丈記）

答え：連体修飾格 解説：傍線部「もとの」。直後が体言「水」。「もとの水（もとの（同じ）水）」で修飾関係。連体修飾格。（冒頭の「河の流れ」の「の」も連体修飾格。）

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は「置き換えテスト」のどこでつまずいたかを確認しましょう。

- **連体修飾格**…直後が**体言**。迷ったら最後に残るのがこれ。
- **主格**…「**が**」に置換でき、直後が用言連体形＋その先に体言（連体節）。
- **同格**…「**で**」に置換でき、前後が**同じもの**。後ろに同じ体言が省略されている。
- **準体格**…「**もの・こと・人**」に置換でき、直後が**格助詞**（を・に・が・は・と・も）。

主格と同格の最終見分け：後ろの連体形が「別の体言を修飾」していれば**主格**（風の吹く**夜**）、「前の体言を説明し直す（同じもの）」なら**同格**（白き鳥の、嘴と脚と赤き）。

繰り返し解いて、「の」を見た瞬間に直後の語をスキャンする習慣をつければ、入試本番でも一瞬で見抜けます。

この問題集は無料です。古文の他の識別（「に」「なり」「が」など）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosensei.com>